

解 答

1 (C)	2 (A)	3 (C)	4 (C)	5 (B)	6 (A)
7 (B)	8 (A)	9 (C)	10 (B)	11 (C)	12 (D)
13 (B)	14 (D)	15 (A)	16 (A)	17 (C)	18 (D)
19 (A)	20 (D)				

1. 「私が駅に着いた時、列車はすでに出ていた」という意味になるので、過去完了形を解答する。他の選択肢は現在や未来なので、whenの節の時制と合わない。
2. 「あなたがただ静かに聞いてくれたら話してあげるのに」
 - ▶ 「静かに聞いてくれたら話すのに」if節の時制から仮定法過去の文とわかるので、帰結節は「助動詞の過去形+動詞の原形」となる。

類題 If I () you, I would apologize to her immediately..

① am ② were ③ had been ④ would be

▶ 主節のwould apologizeに着目して、仮定法過去だと判断する。仮定法過去のif節は過去形なので、②wereを選ぶ。

▶ if節中のbe動詞は、主語の人称や数に関係なく**were**を使うのが原則。〔口語では主語が単数ならwasを使ってもよい〕

解答 ②「もし私があなただったら、すぐ彼女に謝るだろう」

3. 「ケイコは昨日、目の検査をしてもらった。それで、眼鏡が必要になった」
 - ▶ have A done「Aを～してもらう」目的語と過去分詞との間には「目は検査される」と受動関係があることに注意。

□ **have[get] + O + 過去分詞** 「Oを～してもらう〔使役〕 / Oを～される〔被害〕」

I had my hair cut at a famous beauty salon.

(私は有名な美容室で髪を切ってもらった。)

I had my bag stolen last night.

(昨夜、私はかばんを盗まれた。)

▶ やってほしいことであれば「髪を切ってもらった」のような意味に、やってほしことでなければ「かばんを盗まれた」のような意味になる。

▶ **偶然や不注意による被害**を表すときはgetが用いられる。

4. 「楽しさでいる間、有名なコメディアンによる演技は観客の何人かを怒らせた」
 - ▶ whileと分詞の間には主節の主語とbe動詞が省略されていると考える。while (the performance was) entertaining「演技が楽しさでいる間」となるので、現在分詞を解答する。

□ **分詞構文の意味を明確にする接続詞**

While skiing in Hokkaido, he twisted his ankle.

(北海道でスキーをしている間に、彼は足首をねんざした。)

▶ 分詞構文の意味を明確にするために、分詞の前に接続詞を置くことがある。この文では、whileを置くことで「時」を表すことを明確にしている。分詞の前に置かれる接続詞はwhenやwhileが多い。

▶ この文のWhile skiingのような場合は〈主語+be動詞〉の省略と考えることができる場合もある。

⇒ While he was skiing in Hokkaido, he twisted his ankle.

5. 「トムは日本に5年間住んでいるので、日本食に慣れている」

□ **be used to doing[名詞] ~ 「～に慣れている」 (= be accustomed to + doing[名詞])**

形の紛らわしいused toの区別

① **used to do** 「以前はよく～したものだ」 [used to=助動詞]

② **be used to doing[名詞]** 「～することに慣れている」 [used=形容詞/to=前置詞]

③ **be used to do** 「～するのに使われる」

[used=useの過去分詞: be used(受動態)+to do(目的を表す不定詞)]

① I **used to** get up early. (以前はよく早起きしたものだ)

② I **was used to** getting up early. (早起きするのに慣れていた)

③ In those days a flint **was used to make** fire.

(当時は火打石が火をおこすのに使われていた)

6. 「私たちの旅行における最後の滞在地は京都だ。そこには日本の有名な寺や神社がたくさんある」

► Kyotoの説明を追加する関係詞が続く。temples and shrines are located **there** (=in Kyoto)というように先行詞Kyotoは節中で**副詞**として働く関係なので、場所を表す**関係副詞where**を選ぶ。

7. 「トムは何のために北海道に行ったの」

► What ~ for?は「何のために、どうして」と**目的**を尋ねる表現。

□ **What ~ for?** 「何のために/なぜ～」 (=Why ~?)

► 疑問代名詞whatは前置詞forの目的語で、「何のために」という意味になる。

What did the police come here for? (=Why did the police come here?)

(なぜ警察はここに来たのですか。)

8. 「ジョーンズ教授は私たちの学科で他のいかなる教授よりも厳しい」

► 比較級+than any other+单数名詞「他のどの～よりも…」は、**最上級**と同じ意味の表現。

► (C)each otherと(D)one anotherはともに「お互い(に)」と訳し、副詞句ではなく**代名詞**である。これらは常に**他動詞、前置詞**の目的語として用いる。

□ **比較級+than any other+单数形の名詞** 「ほかのどの～よりも…」

Alaska is *larger than any other state in the United States.*

(アラスカは合衆国のほかのどの州よりも大きい。)

Tom is *taller than any other boy in his class.*

(トムはクラスの中で一番背が高い。)

9. 「私は子供がテレビゲームに時間を費やすことに賛成できない」

► approve of ~ 「～に賛成する」 本問では後に動名詞をとっている。childrenは spendingの**意味上の主語**として働いているので、「子供がテレビゲームに時間をかけすぎるのは賛成しない」という意味。

□ **approve of** ~ 「～に賛成する/～をよいと思う」

(↔ **disapprove of** ~ 「～に賛成しない」)

I don't *approve of* the habit of turning wild animals into pets.

(野生の動物をペットにする習慣はよくないと思う。)

10. 「ジョンは昨年多くの講義で落第した。言うまでもなく、より熱心に勉強すべきだ」

□ **needless to say** [通例文頭で] 「言うまでもなく」

Needless to say, she was very angry.

(言うまでもないが、彼女はたいへん怒っていた。)

独立不定詞

文の他の部分から独立し、文全体を修飾する副詞的用法の不定詞を、独立不定詞と呼ぶ。「言う・話す」の意味の動詞を用いるものが多い。慣用句として覚えよう。

□ **to tell (you) the truth** 「実を言うと」 □ **to be sure** 「確かに」

□ **to be frank with you** 「率直に言って」 (=frankly speaking)

□ **to make matters[the matter] worse** 「さらに悪いことには」

□ **not to mention** ~ = **not to speak of** ~ = **to say nothing of** ~ 「～は言うまでもなく」

□ **to say the least (of it)** 「控えめに言っても」

□ **to do A justice** 「Aを公平に評すると」 □ **strange to say** 「奇妙なことに」

- to begin[start] with** ~ 「まず第一に」 (=in the first place)
- to put it briefly[clearly/simply]** 「手短に[はっきり/端的に]言えば」
- needless to say** [通例文頭で] 「言うまでもなく」

11. 「あなたの先生がもっと熱心に勉強するよう警告したら、それを真剣に受け止めるべきだ。これは冗談ではありません」

▶ **take it seriously** 「真剣に受け止める」 ここで **take** は修飾語を伴って「受け止める」の意味。

cf. take his advice[suggestion] 「彼の忠告[提案]に従う」

- joke about** ~ 「～についてからかう」

He *joked* about my tailored suit.

(彼はぼくのオーダーメードのスーツのことでからかった。)

12. 「私のペンはインクが切れています。あなたのを貸してくれませんか」

▶ **borrow** は「(無料で)～を借りる」なので、ペンを借りる文脈ではこれが正解。**rent**, **hire** は「(有料で)～を借りる」、**lend** は「～を貸す」

borrow/lend/rent/use/hireの使い分け

- borrow A** 「A(物・金)を(無料で)借りる」

▶ **borrow** は移動可能なものを無料で借りる時に使う。

- lend A B** 「A(人)にB(物・金)を(無料で)貸す」 (= **lend B to A**)

- rent A (from B)** 「(Bから)A(家・土地など)を(有料で)借りる」

- rent A B** 「A(人)にB(家・土地など)を(有料で)貸す」 (= **rent B to A**)

- use A** 「A(トイレ・電話など)を(一時的に)借りる」

▶ 電話/トイレなど移動不可能なものを借りる場合は **use** を使うのがふつう。携帯電話などの場合は **borrow** も可。

- hire A** 「(車・衣装などを短期間有料で)借りる」

▶ 《米》では **hire** は主に「(人)を雇う」意に用い、**hire a car** は「運転手付きで車を借りる」意。

13. 「私たちは時々、英語の授業中に映画を観る」

▶ **movies** 「映画」を「見る」は **watch** や **see** を用いる。テレビやビデオで見るときは **watch**、映画館で見る場合は **see** がふつう。

▶ (A)**observe** 「～を観察する」,(C)**glance** 「ちらっと見る」,(D)**perceive** 「～であると気づく」

14. 「カエデの葉は秋になると赤や黄色に染まる」

▶ **turn + 形容詞** で第2文型を作って、「～になる」という意味。

The milk *turned sour*. (ミルクが酸っぱくなった)

The leaves have *turned yellow*. (木の葉が黄色になった)

15. 「プログラムの最後の項目に関して、委員会は明日それを再び討論するために集まる予定だ」

- with respect to** ~ 「～に関して(は)」 (= **concerning** ~)

With respect to these letters, I think the best thing is to burn them.

(この手紙に関して一番良いのは燃やしてしまうことだと思う。)

cf. as regards ~ = **with[in] regard to** ~ = **with respect to** ~

「～に関して(は)、～について言うと」 (= **concerning**)

▶ これら3つの表現や **concerning** は、**about / on** より堅い表現。

As regards the test, you need not worry as long as you study hard.

(テストに関しては、一生懸命勉強すれば心配することはない。)

He is correct *in regard to* the theory.

(その理論に関しては、彼は正しい。)

16. 「インターネット上の新聞で書かれた記事はしばしば元の記事の短縮版である」

▶ **of the originals** 「もとのものの」と組むから、**shortened versions** で「短縮版」

という意味にすればよい。

- ▶ (A)version 「…版」,(B)visual 「視覚教材」,(C)variety 「種類」,(D)variable 「変わる[変わりやすい]もの」。

17. 「この間違いはマコトのせいだ。なぜなら、彼はもっと分別を持つべきだった」

- ▶ *one's fault* 「～のせい」 It's my fault. 「それは私のせいだ」で覚えておきたい。
blameにも「責任」の意味はあるが、所有格とは組まない。

□ **should[ought to] have done** 「～すべきだったのに」

- ▶ 『義務』の意味を表すshould / ought to「～すべきだ」に完了形がつくと「～すべきだったのに(実際はしなかった)」という『過去のことに対する非難・後悔』などの気持ちを表す。

The exam results were bad. I *should have tried* harder to make good grades.(試験の結果は悪かった。いい成績が取れるよう、もっと懸命に努力すべきだったのに。)

□ **know better (than to do)** 「(～するほど)愚かではない/分別がある」

- ▶ 文脈上明らかな場合はthan以下が省略されることもある。

You *should have known better.*

(君はもっと分別を持つべきだったのに。)

18. 「彼は常に時間通りにやって来る。とても時間に正確な人だ。」

- ▶ 「時間通りに到着する」を言い換えたものなので、「時間を守る、時間に正確な」の意味になる形容詞punctualを選ぶ。
- ▶ (A)intellectual 「聰明な、理知的な」,(B)objective 「客観的な」,(C)profound 「深みのある」

19. 「先月私は病気で体重が5キロ落ちたのだが、一週間も経たないうちにいつもの体重まで戻った」

- ▶ 「一週間も経たないうちに体重は戻った」と考えてwithin a weekを選ぶ。「期限」を表すby、「継続」を表すuntil、「起点」を表すfromのいずれも、後続するのは時間の量ではなく、時点を表す語である。

20. 「ある理論に基づいて、いつかは他人の考えていることを読み取ることができると専門家は言っている」

- ▶ be based on ~で「～に基づく」という熟語。ここでは**分詞構文**として使われているため、過去分詞で始まっている。(A)はAccording to, (B)はResulting fromとすれば正しい。

□ **be based on[upon] ~**「～に基づいている」

Our foreign policy *is based on* the principle of peaceful coexistence.

(私たちの外交政策は、平和的共存という原理に基づいている。)

□ **according to ~**「(情報源)によれば」

According to today's newspaper, there was a big fire in Tokyo.

(今日の新聞によれば、東京で大家事があった。)

- ▶ according to ~には「～に従って/～に応じて」の意味もある。

The employee were paid *according to* their ability.

(従業員たちはそれぞれの能力に応じて給料を支払われた。)

□ **result from ~**「～の結果として起こる」

The war *resulted from* mistaken policies.

(その戦争は間違った政策から起った。)